

## 飯塚市史 構成 上巻

### 第一編 原始

#### 概説

#### 第一章 旧石器時代

##### 第一節 西北九州の旧石器時代

- 一 日本列島最初の人類文化
- 二 氷河時代の原風景
- 三 旧石器人の技術と生活
- 四 西北九州の旧石器文化

##### 第二節 遠賀川流域の旧石器文化

- 一 遠賀川流域の旧石器時代遺跡
- 二 遠賀川流域の旧石器文化の特質

#### 第二章 縄文時代

##### 第一節 北部九州の縄文文化

- 一 はじめに
- 二 気候の変動などによる自然環境の変化
- 三 時期区分

##### 第二節 遠賀川流域の縄文文化

- 一 住まいと墓
- 二 縄文人の形質
- 三 生業と生活用具
- 四 衣服と装身具
- 五 祭祀

##### 第三節 飯塚市内の遺跡と遺物

- 一 遠賀川水系の縄文遺跡
- 二 鹿毛馬川水系の縄文遺跡
- 三 穂波川水系の縄文遺跡
- 四 内住川・馬敷川水系の縄文時代遺跡
- 五 山口川水系の縄文時代遺跡
- 六 遠賀川河床の縄文時代遺物

##### 第四節 交易、文化要素の伝播

- 一 拠点集落と交易

#### 第三章 弥生時代

## 第一節 弥生時代の概観

- 一 弥生時代の始まり
- 二 弥生時代研究の歩み
- 三 遠賀川式土器の発見と研究
- 四 弥生時代の区分と年代
- 五 水田稲作伝来のルート
- 六 縄文人と弥生人

## 第二節 嘉穂地方の弥生時代

- 一 水田稲作を始めた人々
- 二 弥生人の暮らし
- 三 集落間における戦いの始まり
- 四 甕棺墓制の導入と展開
- 五 立岩遺跡の石器生産と交易
- 六 青銅器と鉄器の生産
- 七 小国の出現と立岩遺跡
- 八 立岩遺跡の発見と研究
- 九 嘉穂地方の弥生社会の展開
- 一〇 邪馬台国連合と「不弥国」嘉穂説

## 第三節 飯塚市内の主要遺跡

- 一 立岩丘陵と周辺の遺跡
- 二 庄内・鹿毛馬川流域
- 三 龍王山東麓と庄司・建花寺・明星寺川流域
- 四 彼岸原丘陵と内住・碓川流域
- 五 穂波川上流と大分・馬敷・山口川流域

## 第四章 古墳時代

### 第一節 古墳時代の概観

- 一 古墳の出現とヤマト政権
- 二 古墳の築造
- 三 東アジア諸国との交渉と大陸文化の受容
- 四 古墳文化の変化
- 五 古墳時代の人々の生活
- 六 ヤマト政権の支配体制

### 第二節 嘉穂地方における古墳の変遷

- 一 古墳時代研究の歩み
- 二 嘉穂地方における古墳時代遺跡の変遷

### 第三節 飯塚市内の主要古墳・遺跡

- 一 庄内・鹿毛馬川流域
- 二 遠賀川東岸丘陵
- 三 遠賀川西岸丘陵 飯塚古墳群 庄司・建花寺・明星寺川流域
- 四 嘉麻・穂波川合流点 菰田・忠隈古墳群
- 五 彼岸原丘陵と内住川流域
- 六 穂波川上流と大分・馬敷・山口川流域

## 第五章 歴史時代

### 第一節 飛鳥・奈良時代

- 一 飛鳥・奈良時代の概観
- 二 鹿毛馬神籠石
- 三 大分廃寺

## 第二編 古代

### 概説

#### 第一章 ヤマト王権の時代

##### 第一節 ヤマト王権と九州

##### 第二節 磐井の反乱と穂波屯倉・鎌屯倉

- 一 ヤマト王権の熊襲平定説話
- 二 筑紫君磐井の「反乱」
- 三 屯倉設置と地方支配
- 四 鎌・穂波の屯倉とヤマト王権

##### 第三節 鹿毛馬と古代山城

- 一 「朝鮮式」山城と対外危機
- 二 鹿毛馬の「神籠石」と西国・九州
- 三 古代の山城と総領・大宰

##### 第四節 東アジアの激動と律令国家への道

- 一 隋・唐帝国の成立と東アジア諸国
- 二 律令国家への芽生え
- 三 律令国家への歩み
- 四 国郡里の地方行政区画
- 五 公民の誕生と戸籍

##### 第五節 百済の役と筑紫大宰

- 一 齐明天皇と百済出兵

- 二 筑紫大宰と百濟救済の役
- 三 筑紫大宰から令制大宰府へ

## 第二章 律令制の時代—奈良時代

### 第一節 律令時代の九州

- 一 古代の「近代化」と奈良時代
- 二 律令制下の隣国・蕃国と夷狄
- 三 奈良時代の政変
- 四 藤原広嗣の乱と政争
- 五 宇佐八幡宮神託事件と政争

### 第二節 奈良時代の大宰府と飯塚地域

- 一 大宰府の成立
- 二 大宰府の機能
- 三 大宰府廃止とその機能
- 四 官制
- 五 地方行政組織
- 六 筑前国の成立
- 七 人々の負担
- 八 大宰府と人々の負担
- 九 出土文字資料からみた飯塚地域の負担

### 第三節 嘉麻・穂波郡の郡家と郷・条里

### 第四節 嘉摩郡・穂波郡の奈良時代

- 一 律令制下の国司
- 二 筑前国司山上憶良と嘉摩・穂波郡
- 三 祥瑞と古代の「近代国家」
- 四 祥瑞と令・式
- 五 嘉摩郡の白雉と祥瑞

### 第五節 古代の感動と烽

## 第三章 古代貴族の時代—平安時代

### 第一節 平安時代の概観

### 第二節 平安時代の大宰府と飯塚地域

- 一 大宰府の展開と変質
- 二 観世音寺と飯塚地域
- 三 安楽寺と飯塚地域

### 第三節 大分八幡宮の創建と展開

- 一 縁起類に見える大分八幡宮の創建
  - 二 筥崎宮への遷座
  - 三 大分八幡宮のその後
- 第四節 観世音領と飯塚地域
- 一 嘉麻郡・穂波郡における観世音寺領の成立
  - 二 高田荘の成立
  - 三 碓井封の荘園化
  - 四 延久の荘園整理令に至るまでの碓井封の展開過程
  - 五 碓井封山口造寺村をめぐる安楽寺との相論
  - 六 観世音寺の東大寺末寺化と碓井封

### 第三編 中世

#### 概説

#### 第一章 鎌倉時代の在地勢力と荘園

##### 第一節 鎌倉幕府の成立

- 一 平氏政権と鎮西武士団
- 二 鎌倉幕府の成立と嘉摩・穂波地域

##### 第二節 嘉麻・穂波地域の荘園について

- 一 粥田氏と延勝寺領穂波庄について
- 二 椿・綱別庄と宮吉名について
- 三 粥田庄について
- 四 筥崎宮領益富名（庄）
- 五 延暦寺領荘園について

##### 第三節 蒙古襲来と嘉摩・穂波地域

- 一 二度にわたる蒙古合戦について
- 二 嘉麻・穂波地域にみる蒙古襲来の影響

##### 第四節 遠賀川の河川交通について

##### 第五節 嘉麻・穂波地域の信仰について

- 一 英彦山信仰について
- 二 明星寺と聖光上人
- 三 大般若経をめぐる寺社

##### 第六節 鎌倉幕府の崩壊

#### 第二章 南北朝の内乱について

##### 第一節 建武政権の成立

- 第二節 建武新政の挫折と足利尊氏
- 第三節 安国寺・利生塔の設置と景福寺
- 第四節 足利直冬九州下向
- 第五節 征西府の成立
- 第六節 九州探題今川了俊の下向
- 第七節 神社の祭礼と庄民

### 第三章 室町時代の政治と軍事

#### 第一節 室町時代前期の政治情勢

- 一 明德・応永期の政治情勢
- 二 永享期の情勢

#### 第二節 室町時代中後期の情勢

- 一 嘉吉・文安期の情勢
- 二 享徳～長享期の情勢

#### 第三節 大内氏の領国支配

- 一 郡代の設置
- 二 法令の発布と分国法
- 三 武家領・寺社領への賦課

### 第四章 戦国の動乱

#### 第一節 大内氏の滅亡

- 一 明応の政変と大内義興の上洛
- 二 大内義隆と陶隆房
- 三 毛利氏の台頭

#### 第二節 永禄年間の戦い

- 一 大友氏の豊筑制圧
- 二 毛利氏の北部九州進出
- 三 毛利氏の北部九州撤退

#### 第三節 天正年間の戦い

- 一 大友氏の領国経営と嘉穂地方
- 二 大友領国の動揺と秋月氏・高橋氏
- 三 豊臣秀吉の襲来

### 第五章 室町・戦国時代の社会・経済・文化

#### 第一節 荘園・寺社領の諸相

- 一 宇佐八幡領の経営と人々の生活

- 二 宇佐八幡宮領への武家の関与
- 三 大宰府安楽寺天満宮領の諸相
- 四 高野山金剛三昧院領
- 五 その他の寺社領

## 第二節 合屋庄と合屋氏

- 一 合屋庄とは何か
- 二 在地領主合屋氏
- 三 合屋庄の禅寺
- 四 陶氏の合屋庄支配

## 第三節 嘉穂地方の経済と遠賀川水運

- 一 室町・戦国時代の経済
- 二 遠賀川水系の収取体制

## 第四節 信仰と連歌

- 一 信仰の多様性と重層性
- 二 連歌の隆盛